

# 難防除雑草「ナガエツルノゲイトウ」分布拡大中 ～早期発見・早期駆除を！～

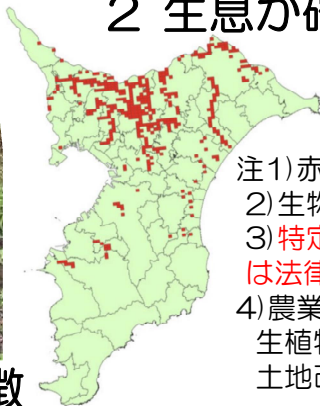
ナガエツルノゲイトウは定着すると駆除は非常に困難なので、未侵入の水田では早期発見と早期駆除が重要になります。種子繁殖はせず、茎葉で増殖して群落化する特徴があります。草姿や生育の特徴を理解し、畦畔、用排水路及び水田の水口を巡回して早期発見に努めましょう。

## 1 水稲に与える被害

水田に侵入すると繁茂により減収するとともに、収穫時期には稲に覆い被さり倒伏を助長し、さらにコンバインの詰まり等収穫の作業性が低下します。



## 2 生息が確認された地域



近年、栗山川から九十九里地域、また、小櫃川、小糸川水系に分布を広げています

- 注1) 赤点が生息確認地点
- 2) 生物多様性センターHPより
- 3) 特定外来生物なので持ち出しや栽培は法律で禁止されています
- 4) 農業用排水施設における外来水生植物防除事業については市町村及び土地改良区にお問い合わせください

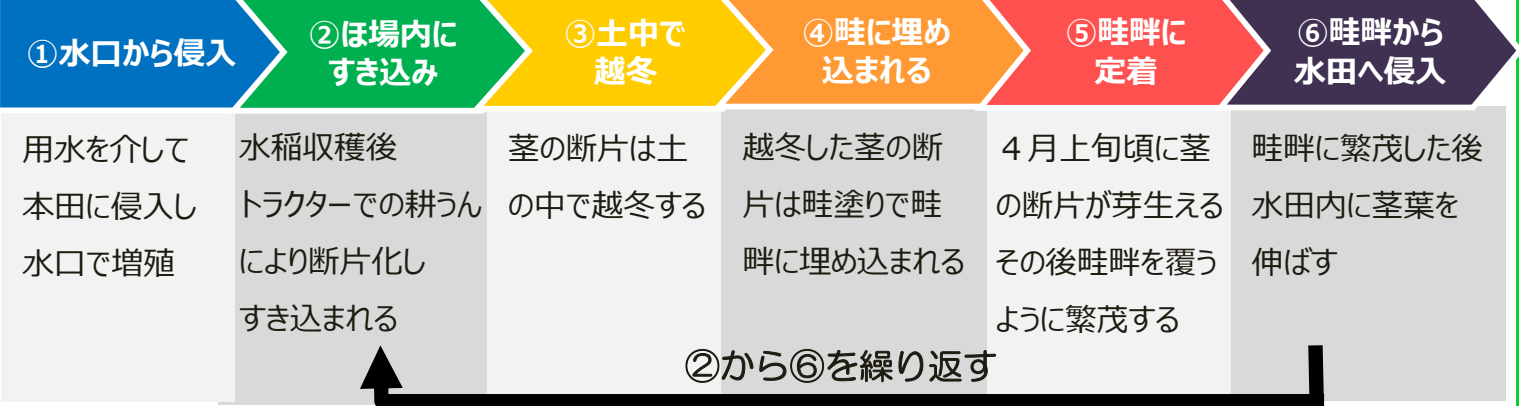
## 3 ナガエツルノゲイトウの草姿の特徴

### (1) 草姿 (形態)



### (2) 用排水路で繁殖

## 4 水田における増殖と定着



畦畔の繁茂を放置すると土中深くにはびこり、駆除は難しくなる



具体的な防除対策は本資料の裏面に記載しています (裏面に続く)

## 5 刈払い機等による畦畔機械除草は行わない

刈払い機によって断片化した茎葉は水田内や排水路に飛散し、発生場所が拡大します。また、刈ってもすぐに再生するので、刈払いは畦畔での繁茂を助長します。防除は除草剤を活用しましょう。

## 6 侵入防止及び除草剤による防除対策

### (1) 未侵入水田における侵入防止対策

水口（給水栓等）に網を設置し、茎葉の流入を防ぎます（右写真）。農機に付着して拡散するので、発生のない水田から耕うんし、よく洗浄しましょう。



網を設置し茎断片の侵入を防止

### (2) 侵入極初期の防除方法

水田内の水口等の発生には、水稻栽培期間にはロイヤント乳剤（表2）、水稻収穫後はナガエツルノゲイトウの茎葉が展開した時期～降霜により枯れる前までにラウンドアップマックスロードを散布します（表1）。畦畔に発生した時はラウンドアップマックスロードを散布し駆除を目指します（表1）。

### (3) 畦畔で繁茂し、定着している場合の防除方法

#### 1) 畦畔の防除

代かき前及び水稻収穫後にラウンドアップマックスロードを、中干し開始後にザクサ液剤を散布し、7月上旬にロイヤント乳剤を畦畔上及び畦畔から水田に侵入するナガエツルノゲイトウを対象に散布します（図1及び表1）。崩れやすい畦畔では、水田入水前（3月下旬）のカソロン粒剤6.7散布に変えます。

図1 畦畔に発生したナガエツルノゲイトウの除草効果が期待される防除体系

| 栽培暦 → | 移植  |                            | 中干し             |   | 出穂 |    | 収穫 |                                  |
|-------|---|----------------------------|-----------------|---|----|----|----|----------------------------------|
|       | 3月  | 4月                         | 5月              | 6月  | 7月 | 8月 | 9月 | 10月                              |
|       | 3月下旬<br>カソロン<br>粒剤6.7<br>(畦畔崩壊<br>しやすい場合) | 4月中旬<br>ラウンドアップ<br>マックスロード | 6月上～中旬<br>ザクサ液剤 | 6月下旬～7月上旬<br>ロイヤント乳剤<br>・収穫前45日まで<br>・ナガエツルノゲイトウの<br>草丈35cmまで |    |    |    | 9月下旬～10月上旬<br>ラウンドアップ<br>マックスロード |

#### 2) 水田内の体系防除

水田内で発生が認められるときは、表2の除草剤を図2のように組み合わせた体系防除を実施します。

図2 水田内に発生したナガエツルノゲイトウの防除体系

| 栽培暦 →                       | 移植                            |    | 中干し   |  |
|-----------------------------|-------------------------------|----|---|--|
|                             | 4月                            | 5月 | 6月  |  |
| 体系防除A<br>(散粒機及び<br>大型噴霧器使用) | 田植同時～移植後7日<br>バッチリLX<br>1キロ粒剤 |    | 移植後約40日<br>ロイヤント<br>乳剤<br>・落水又はごく浅く湛水<br>・ナガエツルノゲイトウの<br>草丈35cmまで |  |
| 体系防除B<br>(散粒機使用)            | 田植同時～移植直後<br>ピラクロン<br>1キロ粒剤   |    | 移植後約15日<br>ウィードコア<br>1キロ粒剤<br>・ナガエツルノゲイトウの<br>草丈5cmまで             |  |



体系防除Bと慣行防除の畝間の残草  
注) 実線丸がナガエツルノゲイトウ、  
点線丸がイボクサ

表1 水稻収穫後及び水田畦畔で用いる除草剤

| 使用場面 | 除草剤名           | 使用時期                | 本剤の使用回数 | 10a当たり使用量                                    | 使用方法   |
|------|----------------|---------------------|---------|--|--------|
| 刈取後  | ラウンドアップマックスロード | 耕起前<br>(雑草生育期)      | 2回      | 200～500ml<br>(希釈水量<br>50～100%)<br>(少量25～50%) | 雑草茎葉散布 |
|      |                | 収穫前日まで<br>(雑草生育期)   | 3回以内    | 200～500ml<br>(希釈水量<br>50～100%)<br>(少量25～50%) |        |
| 水田畦畔 | カソロン粒剤6.7      | 秋冬期～春期の雑草発生前～雑草発生始期 | 1回      | 4～6kg  | 全面土壌散布 |
|      | ザクサ液剤          | 収穫7日前まで<br>(雑草生育期)  | 2回以内    | 500～1000ml<br>(希釈水量<br>100～150%)             | 雑草茎葉散布 |
|      | ロイヤント乳剤        | 収穫45日前まで<br>(雑草生育期) | 2回以内    | 200ml<br>(希釈水量<br>25～100%)                   | 雑草茎葉散布 |

表2 水田内防除に用いる除草剤

| 使用場面        | 除草剤名                       | 使用時期                                    | 本剤の使用回数                    | 10a当たり使用量        | 使用方法             |
|-------------|----------------------------|---|----------------------------|------------------|------------------|
| 移植水稻        | ピラクロン1キロ粒剤                 | 移植時                                     | 1回                         | 1kg              | 田植同時散布           |
|             |                            | 植代後～移植7日前まで又は移植直後～ノビエ1.5葉期(但し、移植後30日まで) |                            |                  | 湛水散布又は無人航空機による散布 |
|             | バッチリLX1キロ粒剤                | 移植時                                     | 1回                         | 1kg              | 田植同時散布           |
|             |                            | 移植直後～ノビエ2.5葉期(但し、移植後30日まで)              |                            |                  | 湛水散布又は無人航空機による散布 |
| ウィードコア1キロ粒剤 | 移植後7日～ノビエ4葉期(但し、収穫60日前まで)  | 2回以内                                    | 1kg                        | 湛水散布又は無人航空機による散布 |                  |
| ロイヤント乳剤     | 移植後20日～ノビエ5葉期(但し、収穫45日前まで) | 2回以内                                    | 200ml<br>(希釈水量<br>25～100%) | 落水散布又はごく浅く湛水して散布 |                  |

注) 農薬使用に際しては、ラベルの表示をよく確認するとともに、最新の農薬使用基準を守って使用してください。

本資料に係る研究は農林水産省委託プロジェクト研究「農業被害をもたらす侵略的外来種の管理技術の開発」JPJ0079666の補助を受けて行った